

平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	電気回路 I	担当教員	長南功男		
学年学科	3 年 電子制御工学科	通年	必修	2 単位	
学習・教育目標	(D-4) 100%				
授業の目標と期待される効果： 抵抗、インダクタンス、コンデンサの電気特性を理解し、それらを組み合わせた場合の回路解法を習得する。具体的には以下の項目を目標とする。 ① R, L, C の電圧電流特性を理解する ② 正弦波交流の計算を理解する ③ 記号法を習得する ④ キルヒホッフの法則を理解する ⑤ 直列回路の計算法を理解する ⑥ 並列回路の計算法を理解する		成績評価の方法： 定期試験 200 点 + 平常試験 240 ~ 280 点 総得点率 (%) によって成績評価を行なう。 達成度評価の基準： 教科書、演習書の問題と同レベルの問題を試験で出題し、6 割以上の正答レベルまで達していること。 ① R, L, C の電圧電流特性を正弦波で計算できること ② 正弦波交流のパラメータを理解し、計算できること ③ 記号法と普通の交流表記の関連を理解していること ④ キルヒホッフの法則を用いた回路の電圧電流計算ができること ⑤ 直列回路のインピーダンス計算、電圧電流計算ができること ⑥ 並列回路のインピーダンス計算、電圧電流計算ができること			
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること					
教科書および参考書： 基礎からの交流理論 (小亀英己・電気学会・オーム社) 電気回路 (Edminister, 村崎憲雄訳・オーム社)					
授業の概要と予定：前期					
第 1 回：抵抗器					
第 2 回：電圧源、電流源					
第 3 回：抵抗の直列接続、並列接続					
第 4 回：キルヒホッフの法則					
第 5 回：電力とエネルギー					
第 6 回：正弦波交流電圧の発生					
第 7 回：正弦波交流の用語					
第 8 回：中間試験					
第 9 回：交流の大きさと波形					
第 10 回：回路素子					
第 11 回：R, L, C の働き					
第 12 回：RL 直列回路 / 並列回路					
第 13 回：RC 直列回路 / 並列回路					
第 14 回：RLC 直列回路					
第 15 回：直列共振					
期末試験					
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)					

授業の概要と予定：後期
第17回：複素数
第18回：正弦波と複素数の対応
第19回：複素インピーダンス
第20回：交流回路の例
第21回：インピーダンスとアドミタンス
第22回：閉路方程式
第23回：閉路方程式
第24回：中間試験
第25回：節点方程式
第26回：節点方程式
第27回：重ねの理
第28回：可逆定理
第29回；補償定理
第30回：テブナンの定理とノートンの定理
第31回：四端子回路網
期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験解答解説など）